

2023.4.18

Euroluca 2023 特別展示

Costellations (星座)展

キュレーション: Beppe Finessi (ベッペ・フィネッシ)

インスタレーション: Formafantasma (フォルマファンタズマ)

4月18日～23日、ホール 9-11、13-15

エウロルーチェの4ホールにまたがる複合的なエキシビション。7つのオープンな展示スペースからなり、単一の認識可能な建築言語によって統一されています。

Aldo Mondino (アルド・モンディーノ)、François Morellet (フランソワ・モレレ)、Keith Sonnier (キース・ソニエ) などの巨匠の作品、Monica Bonvicini (モニカ・ボンヴィチーニ)、Andrea Bowers (アンドレア・パウワーズ)、Mark Handforth (マーク・ハンドフォース)、Sislej Xhafa (シスレイ・ザファ) などの国際シーンの著名人の作品、Corrado Levi (コラード・リーヴィ)、Nanda Vigo (ナンダ・ヴィゴ) などの自由で横断的な作家の研究、そして、Mathieu Mercier (マチュー・メルシエ)、Duccio Maria Gambi (ドゥッチョ・マリア・ガンビ)、Valentin Ruhry (ヴァレンティン・ルーリー) などの分類できない著名なクリエイターの作品を展示する現代美術の展覧会です。

また、現代写真の最も独創的で国際的に評価されている作家の一人である Guido Guidi (グイド・グイーディ) の一連のイメージは、まさに例外的な存在と言える展示です。

更には、イタリア建築を代表する2人の作家、Gae Aulenti (ガエ・アウレンティ) と Umberto Riva (ウンベルト・リーヴァ) の展示では、そのデザイン思考の一部を「照明」に捧げ、多くの原画やデザイン史に残る作品を通して、その巨匠の足跡を振り返ります。

Costellations (コステレーション/星座)展は、7つの“インターラード(間奏曲)”とも呼べるスタンド間の展示で構成され、常に「光」をテーマとした作品やコンテンツが展示され、それぞれ、最も権威ある中から選ばれた現代批評家たちのコメントが付されます。

ベッペ・フィネッシのコメント:

「Costellations 展はエウロルーチェ 2023 のプロジェクトに基づくコンセプトを象徴的に表現しています。『The City of Lights (光の街): 多心的、学際的、多元的』と題され、現代美術、建築、デザイン、写真の各分野の作家による作品を集めた拡散型の展覧会で、これらのアーティストやデザイナーのオリジナル作品に繊細で注意深い視線を向けた専門家によるオリジナルの評論によって科学的にサポートされています」

展示デザイン

ベッペ・フィネッシがキュレーションするアートやデザインの作品の展示スペースを、フォルマファンタズマが木材を使いモジュール式のディスプレイシステムを開発しました。構造はそれぞれ異なりますが、すべて同じモジュール・フレームの繰り返しになっています。その意図は、軽量で再利用・リサイクル可能なディスプレイシステムを開発することにあります。素材は、はっきりと見える金具のおかげで、簡単に分解することができます。「コンステレーション」のデザインは、展示物のための十分なスペースを確保するだけでなく、来場者が立ち止まって休憩できるよう、構造体に組み込まれたシートでスペースを確保することを目的としています。「展示空間をデザインする際に私たちが目指すのは、作品そのものが雄弁に語っていることにできるだけ手を加えず、内容も鑑賞者も尊重したシンプルで効果的なソリューションを提供することです。木と紙のオアシスのように構成された“コンステレーション”が、内省の場となることを願っています」と、Andrea Trimarchi (アンドレア・トリマルキ) と Simone Farresin (シモーネ・ファレージン) はコメントしています。

BEPPE FINESSI (ベッペ・フィネッシ)

建築家、博士号取得。ミラノ工科大学デザイン学部准教授、「デザインと芸術」を担当し、評論(イタロ・ルピの指導のもと『Abitare』誌編集者)や研究(ブルーノ・ムナリ、アキレ・カステリオーニ、コラード・リーヴィ、ヴィコ・マジストレッティ、アンジェロ・マンジャロッチェ、ピオ・マンズー、アレッサンドロ・メンディーニの展覧会や出版物を企画)の分野で活動する。2010年、出版プロジェクト「Inventario」を立ち上げ、ディレクターを務め、コンパッツ・ドーロを受賞した。トリエンナーレ・デザインミュージアム第7回展(2014年)「Il Design Italiano oltre le crisi」、ADI デザインミュージアム開館記念・常設展「Il cucchiaio e la città」(2021年)のキュレーションを担当。ミラノサローネでは、展覧会「Avverati - Progetti dal SaloneSatellite alla produzione」(2007)、「Tavole Meravigliose」(2008)、「Ospiti Inaspettati」(2010)、「Stanze」(2016)、「SaloneSatellite. 20 years of new creativity」(2017年)などのキュレーションを担当。SaloneSatellite 第1回(1998年)より選考委員を務めている。

FORMAFANTASMA (フォルマ・ファンタズマ)

Andrea Trimarchi (アンドレア・トリマルキ) ・ Simone Farresin (シモーネ・ファレージン)

現在のデザイン分野を形成している社会的、政治的、歴史的、生態学的な力に取り組むデザイン・研究スタジオ。クライアントのために働く場合でも、独立したプロジェクトを展開する場合でも、文脈、プロセス、細部に至るまで同じように厳格な注意を払うことを徹底している。フォルマファンタズマの分析的な性質は、特に正確な視覚的結果、製品、戦略に反映される。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it